144 この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり４本

試読・購読はこちらから

2023年2月5日号　　編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

流産や死産、支援に向け第一歩へ

5日（日）＝1、3面

迫る

新たな命の誕生はとても喜ばしいことですが、国内で流産や死産を経験した人が年間２万人もいることをご存じでしょうか。

命ある我が子を抱けなかったショックだけではなく、自治体の窓口で「赤ちゃんはどうしたの？」などと問われ、さらにつらい体験をした女性たちがいます。

流産や死産を経験した後は引きこもりがちになりますが、それではいけないと、当事者でつくる自助グループが各地で活動しています＝**写真**。ある自助グループを主宰する女性は言います。「体験を話して悲しみに向き合うことが大切。孤立が一番怖い」と。当事者の実情が知られるようになると、自治体側にも当事者をサポートする動きが出始めてきました。

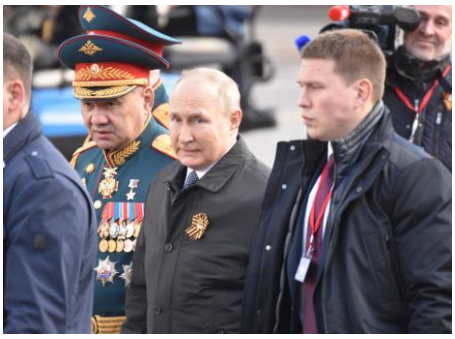
流産や死産に直面した当事者の心境、彼女らを支える動きに迫ります。

読む政治

消えた「安倍家」

10日（金）＝1、3面

安倍晋三元首相の銃撃事件や衆院小選挙区の「10増10減」を受け、政界から「安倍家」の名前が消えつつあります。水面下では、同族の岸家から後継者を迎える案も模索されましたが、実現にはいたりませんでした。地元・山口県を記者が訪れ、運命に翻弄された一族の葛藤と決断を追います。



対独戦勝記念式典の会場を後にするプーチン大統領（中央）＝モスクワで2022年5月撮影

「侵攻」が変えた世界

2月6日（月）＝1、3面

ロシアによるウクライナ侵攻が２月24日で１年となるのを前に、「侵攻」が変えた世界各地の様子を掘り下げる企画の第２弾です。今回は、ロシアがなぜ、民族的にも文化的にも近いこの隣国に侵攻することになったのか、その背景を歴史の長いスパンから考察します。

「大国」「帝国」だった過去のロシアに固執するあまり、戦争に突入して、未来の資産を食い潰すプーチン政権の姿勢が取材によって浮き彫りになってきました。ロシアはどこから来て、どこに向かうのかを探ります。

特集ワイド

家康論と岸田政権

6日（月）＝夕刊特集ワイド

コロナ禍に値上げラッシュが追い打ちをかけています。ロシアのウクライナ侵攻は世界を曇らせ、防衛増税は国民の反発をかっています。現代はまさに激動の世。解決しがたい課題が山積みです。では、今年のＮＨＫ大河ドラマの主人公、徳川家康＝**イラスト**＝が国のリーダーだったら、どうするでしょうか。戦乱の世を平らげた家康を歴史研究者らと振り返り、現代社会の難局を打開するヒントを探ります。

竹橋の窓辺から

編集後記

センバツ高校野球の出場校が１月27日に発表されました。今年から選考委員会での出場校選出の瞬間が「センバツＬＩＶＥ！」でライブ配信（無料）されることになりました。校長が電話を待つ形から、多くの人がリアルタイムに吉報を受け取れるようにと、時代に合わせて進化したセンバツ。開幕は３月18日。試合も「センバツＬＩＶＥ！」で全てライブ配信します。ぜひＱＲからご覧ください。（小林知史）

MAINICHI 毎日新聞 150 2022年2月21日 毎日新聞創刊150年

※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。